



子どもの笑顔が輝き

勢いのある学校

No. 37 (H30. 2. 1発行) 文責 校長 福田雅也

栄養たっぷりの「土作り」

農作物作りの基本は「土作り」と言われます。

保護者の皆様方の中には、農業に携わっておられる方もいらっしゃいますので、農業のことをまったく知らない私が、こんなことを書くと笑われるでしょう。しかし、「土作り」が大切であるということは、私にも良く分かります。良い農作物を作るために一番大切なことは、苗(種)を植える前に、手間ひまを惜しまずに「土作り」にしっかりと取り組むことだと理解しています。

私は、小学校時代というのは、農業で言うとその「土作り」をしている期間だと考えています。わら、木の葉、鶏糞や牛糞等を、時間をかけながら根気良く混ぜ合わせ堆肥を作り、土と混ぜて良い土を作っていくように、(詳しくないので、間違っていたらすみません。)小学校時代は、将来、子どもたちが、それぞれの人生の中で素晴らしい実を实らせるために、学習を重ね、運動で体づくりをしながら、日々繰り返される様々な経験とそれらを混ぜ合わせ、人としての土台を作っている時期だと考えているのです。特に、経験という面では、やってはいけないことをして失敗したり、友達とけんかなどのトラブルがあったりと、子どもたちにとって、この時期だからこそ経験として許されることがたくさんあると思います。大人になってやってしまったのでは、まずいようなことでも、この時期は、そのできごとをもとに学ばばいいのです。(もちろん、度を越したら困りますが…)その失敗等を、成長の糧とすることができるのです。

大切なのは、私達大人がそのような視点で、子どもたちを見守ることができるかどうかだと思います。子どもたちに、失敗やトラブル等を起こさせないことに視点を置くのではなく、子どもたちが経験する日々の様々な出来事をしっかりと受け止め、そこから何を身に付けさせることができるのかを見極め、導いてあげることに視点を置くことが「土作り」につながると思うのです。自分の思いだけで子どもたちを動かそうとせず、感情的に怒ったりせず、言葉だけで正しいことを押し付けよう(ああしなさい・こうしなさい、あれはだめ・これはだめ)とせず、子どもたちが、将来実を实らせる姿をしっかりとイメージしながら、共に歩んでいけたらと思います。

小学校時代は栄養たっぷりの「土作り」、中学校時代に苗(種)を植え、根を張り、高校以上の学びで大きく大きく成長し、やがて、社会人として素晴らしい実を实らせてくれたらと願っています。